

令和3年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究		
研究課題名		老化細胞の競合と炎症誘導の関連の解析		
新規・継続の別		新規 ・ 継続		
研究代表者	所属	京都大学 大学院医学研究科分子腫瘍学分野	40歳 以下○	35歳 以下○
	職名・氏名	教授・藤田恭之		
研究分担者 (適宜行を追加し て下さい)	所属	京都大学大学院医学研究科分子腫瘍学分野	/	/
	職名・氏名	准教授・田守洋一郎		
	所属	京都大学大学院医学研究科分子腫瘍学分野	/	/
	職名・氏名	助教・谷村信行		
受け入れ教員	職名・氏名	教授・村上正晃		
概要 (100～150字程度)		本研究では非免疫細胞にて生じるケモカイン・サイトカイン大量産生機構である IL-6 アンブを基盤とし、当該機構が細胞競合にどのような影響を与えるか共同研究にて施行している。		
研究目的 (300字程度)		慢性炎症は、さまざまな疾患との関連性が認められることから、より詳細な分子機構の解明が多くの病気に対する新規治療法に繋がると考えられる。当研究室は細胞競合の解析に長けており、制御される分子の生理的機能を数多く明らかにしてきた。本研究では、村上教授が世界に先駆けて報告した炎症誘導機構の一つである IL-6 アンブに着目し、当該機構依存的炎症誘導時の細胞競合、特に老化細胞との競合の変化およびその分子メカニズムについて解析を行い、論文化を目指す。		
研究内容・成果 (1000字程度・Web会議の回数も記載)		老化細胞は生体に加わる加齢などのストレスにより誘導され、細胞の増殖を停止する重要ながん抑制機構の一つである。一方で老化した細胞は生体内で慢性炎症を誘導することでがんを含む様々な疾患の発症に強く関与することが考えられている。本研究では村上教授の独自コンセプトである IL-6 アンブによる炎症誘導が細胞競合にどのような影響を及ぼすかを検討する。特に、正常上皮細胞とがん細胞の培養系にて IL-6 アンブの活性化を誘導することでがん細胞排除機構の変容を現在検討中である。今後は in vitro の実験系のみならず多発性硬化症モデル、IL-6 アンブ依存的関節炎モデル等の慢性炎症モデルにがんの発症を誘導し生体内における細胞競合の挙動を検討していきたい。 上記研究の打ち合わせの為、Web会議を年2回程度実施した。		
成果		【学会報告】 参加者名、講演タイトル、学会名、開催場所、開催日時入力のこと		

	<b>【論文発表】</b> 著者、論文名、掲載誌名、号・年・ページ等、IF入力のこと
	<b>【新聞報道】</b>